

中堅保育者におけるアイデンティティ地位からみた 保育職への意識の相違

西山 修 ・ 吉田 満穂* ・ 片山 美香

This study aims to clarify the differences in mid-career childcare workers' views on their jobs according to their identity status. The Identity Status Scale (Kato, 1983) was used to assess 269 mid-career childcare workers, and a text mining analysis showed that their identity status reflected the differences in their perceptions of their jobs. For example, for the achievement, positive words such as “doing one’s best” and “efforts” were mentioned. On the other hand, for the diffusion, words regarding aptitude were mentioned, such as “it is suitable.” The differences in mid-career childcare workers' perspectives on their jobs are also thought to influence them in the second half of their adulthood.

Keywords : identity status, views on childcare, mid-career childcare workers

問 題

本論では、中堅保育者に焦点を当て、アイデンティティ形成からみた保育職への意識を検討する。具体的には、就職後、約8年が経過した現職保育者のアイデンティティ地位を同定し、地位毎の職業意識や保育観等の特徴を記述する。中堅保育者のキャリア発達を考察し、支援するための一資料を提示することを目的とする。

近年、世界の潮流は幼児教育・保育の振興にあり、その担い手（保育者）の実践の質保証やその支援に関心が高まっている（e.g., OECD, 2012；厚生労働省, 2010）。我が国でも、子どもや家庭を巡る問題の複雑化に対応するため、保育者の専門性や社会的責任は、新しく出された幼保連携型認定こども園教育・保育要領などにも謳われている（内閣府, 2014）。しかしながら、現在、我が国の幼児教育・保育は市場原理の導入と効率化に傾斜してきたと言わざるを得ない。保育者の正規雇用は減少し、派遣などの非正規雇用が大半を占める園も少なくない。安い労働力が歓迎され、経験者（特に中堅保育者）の減少により豊かな保育実践の継承が困難になって

いると推察される。また、業務の拡大や多様化から保育者の疲弊感が増大している（厚生労働省, 2010）。保育者の実践の質を高め維持することが、子どもの健やかな育ちを保証する。今や実践の質保証は危機的な状況と言える。

中堅保育者は一般に、経験も体力も充実しており、園運営の中心的な原動力となっている。経験の蓄積から実践での予測が立つようになり、合理的な働きが可能となる。幼児に対しても多面的な見方ができるようになり、援助が的確になってくる。高濱(2001)は、中堅保育者（5～10年）の特徴の1つとして、幼児の行動を理解する際、一緒に遊びながら、幼児がその行動をとる状況を理解したり、幼児の意図を実現するための援助に気付いたりしていると指摘する。保護者からの信頼も厚くなり、初任保育者にとっては、よきモデルとなる。他方、初任保育者への指導の責任も増す。保育現場の人間関係の要として周囲からの期待も大きい。時としてそれが不満やストレスに繋がりがねない。また中堅期は、結婚、出産、子育ての時期にあたり、個人の生活は充実するとともに、多忙を極める。中堅期は、様々な役割と変化、

岡山大学大学院教育学研究科発達支援学系 700-8530 岡山市北区津島中3-1-1

*岡山大学大学院教育学研究科

Differences in Mid-Career Childcare Workers' Views on Their Jobs According to Their Identity Status.

Osamu NISHIYAMA, Mitsuho YOSHIDA*, and Mika KATAYAMA

Division of Developmental Studies and Support, Graduate School of Education, Okayama University, 3-1-1 Tshishimana, Kita-ku, Okayama 700-8530

*Graduate School of Education (Master's Course), Okayama University

期待と不安を伴う、複雑な時期であるとも言える。

Erikson (1950/1977) によってアイデンティティ (ego identity; 以下, 自我同一性とする) の概念が提示されて以来, 膨大な研究が蓄積されてきた。近年この概念は, 青年期のみならず中年期以降をも射程とした生涯発達の観点から重要視されている (岡本, 2002)。塚原 (2013) によれば, 自我同一性の主題は青年期に顕著に表れるものであるが, 必ずしも青年期に自我同一性が達成されるわけではなく, 現実的には成人期が実際の達成期間に相当する。また大野 (2010) は, 自我同一性そのものが他共に認める自信だとすると, そうした自信を身に付けることができるのは, 社会に出てからであるとする。

保育者という専門職として社会に出て多様な人間関係の中に置かれたとき, 安定した個 (自我同一性) を自覚できるか否かは極めて重要である。近年, 保育者の専門性とは何か, 保育者養成に求められるものは何かという議論のなかで, 保育者の自我同一性の重要性を指摘する声は多いが (例えば, 秋田, 2001; 森上, 2000), 実証的な研究は十分でない。

そこで本論は, 中堅保育者の同一性地位を取り上げ, 保育職への意識を検討する。後述のように, 文章完成法 (Sentence Completion Test, 以下, SCT) を援用した自由記述から, 中堅保育者に固有の職業意識や保育観等を捉える。分析ではまず, テキストマイニング (text mining) による分析を行い, 記述の全体的傾向や着目点を確認する。次に, 代表的な記述の抽出による分析を行い, より具体的にデータに接近して考察する。

方 法

調査対象及び時期

関東甲信越, 及び中国地方の保育者養成校卒業生に, 郵送法による質問紙調査を実施した。対象者には文面にて調査の趣旨を説明し, 了解を得た者から回答を得た。回収率は53.4%, 581名から回答を得た。現在も保育職に就く者の内, 32歳以上の年齢が高い者 (2SD以上) を除いた269名 (所属: 公立幼12名, 公立保58名, 私立幼47名, 私立保124名, その他26名, 不明2名。性別: 男性5名, 女性264名。平均年齢28.16歳, 標準偏差.39) を対象とした。保育職への意識に関する分析は, 後述の自由記述に回答のあった保育者258名を対象とした。これらの調査は, 大量データを収集するために, 3養成校 (最終年度は4養成校。いずれも短期大学) に依頼し, 年次をずらしながら3年間かけて実施している。よって調査時期は2012年5月から2014年6月であった。

調査内容

①同一性地位判定尺度: 加藤 (1983) による同一性地位を同定する尺度である。12項目から成る。自我同一性を個人がどの程度達成しているか類型論的に表すことができる。回答は「まったくそのとおりだ」「かなりそうだ」「どちらかといえばそうだ」「どちらかといえばそうではない」「そうではない」「全然そうではない」の6段階評定 (6~1点) で得点化した (反転項目はこの反対で得点化)。

②保育職への意識を問う質問: SCTに準じたものを用いた。SCTは, 曖昧かつ省略された未完成任务 (刺激文) に対する自発的表現によって被検者の総合的な理解を図ろうとする心理検査であり, 何を連想するかという点に無意識が関与する, 投影法の1つとされる (小林, 1999; 佐野・楨田, 1960)。ここでは自由記述の質問項目にありがちな, 無回答や乏しい記述を避け, 全ての保育者から一定の広範かつ厚みのある回答を得るためこの手法を援用した。

具体的な質問には, ①私は仕事__ (仕事に対する意識全般について広く引き出す質問), ②職場では__ (職場への具体的な期待や不安, イメージ等を引き出す質問), ③保育__ (保育に対する広範な意識を引き出す質問), ④就職後__ (初任期を振り返り, 現在を考える質問), ⑤仕事について私が悩んでいるのは__ (仕事に関する悩みや不安の具体的な記述を得るための質問) を設定した。

回答は無記名とし, フェイスシートとして「性別」「年齢」等の記入を求めた。質問紙には本論では用いない, 保育者効力感を問う質問項目等が含まれた。

結果と考察

同一性地位の分類

同一性地位論はMarcia (1966) による研究パラダイムである。これに基づく加藤 (1983) の尺度は, 一般的な「現在の自己投入」の水準, 「過去の危機」の水準, 「将来の自己投入の希求 (現在の危機)」の水準という3変数を測定し, その結果から被調査者を6つの同一性地位に分類するものである。分類は4つの典型的な地位である, ①同一性達成地位 (Achievement; 以下, A達成): 過去に高い水準の危機を経験した上で現在の高い水準の自己投入を行っている者, ②権威受容地位 (Foreclosure; 以下, F権威受容): 過去に低い水準の危機しか経験せず, 現在高い水準の自己投入を行っている者, ③積極的モラトリアム地位 (Moratorium; 以下, Mモラトリアム): 現在は高い水準の自己投入を行っていないが, 将来の自己投入を強く求めている者, ④同一性拡散地位 (Diffusion; 以下, D拡散): 現在低い

水準の自己投入しか行っておらず、将来の自己投入の希求も弱い者、さらに2つの中間地位である、⑤同一性達成－権威受容中間地位 (Achievement-Foreclosure; 以下, AF中間), ⑥同一性拡散－積極的モラトリアム中間地位 (Diffusion-Moratorium; 以下, DM中間) を指す。

表1には、中堅保育者の同一性地位判定尺度3変数の平均得点と標準偏差を示した。併せて西山(2006)による養成校卒業直前の保育者志望学生のデータ(平均年齢19.31歳, 標準偏差1.05), 及び初任から熟練までを含む現職保育者のデータ(平均年齢36.00歳, 標準偏差10.28)を比較を目的として併記した。また表2には、同一性地位群の人数分布を示した。

西山(2006)と比べると、中堅保育者は「現在の自己投入」「過去の危機」で比較的高い値を示し、「将来の自己投入の希求」がやや低い値を示した。中堅保育者、志望学生及び現職保育者の平均値の違いを一要因分散分析により検討したところ、「現在の自己投入」では群の効果が有意であった($F_{(2,844)}=6.07, p<.01$)。HSD法(以下, 同じ)を用いた多重比較によると、中堅保育者と現職保育者の平均が、志望学生より高かった($MSe=11.20, p<.05$)。「過去の危機」でも群の効果が有意であった($F_{(2,844)}=6.33, p<.01$)。多重比較によると、中堅保育者の平均が、現職保育者よりも高かった($MSe=9.72, p<.05$)。「将来の自己投入の希求」では群の効果は有意ではなかった($F_{(2,844)}=2.29, n.s.$)。「現在の自己投入」の有意差は、自己投入の対象や場を既にもち、日々子どもと向き合っている現職の保育者において、よりコ

ミットメントの感覚が高くなったものと思われる。「過去の危機」は、自分にとっての重大な決定や選択における葛藤経験を問うものであるが、女性の職業意識の変化、進路選択の拡大などを一つの背景として、葛藤を伴いながらも保育職を選び勤めてきたこれまでの経歴が反映されていると推察される。また、保育実践や職務に伴う様々な葛藤経験も考えられる。中堅保育者は、あらゆる年齢層を含む現職保育者群より得点が高いことから、葛藤経験が身近なものに感じられていると推察される。

中堅保育者における同一性地位の人数分布は、「DM中間」が大多数を占め、「F権威受容」「Mモラトリアム」「D拡散」が少数であった。この結果は、加藤(1983)、大矢(1999)らの一般大学生を対象とした施行結果とほぼ同様の傾向を示している。各地位の人数について、中堅保育者、志望学生、及び現職保育者との分布の差を χ^2 検定を用いて比較したところ有意傾向であった($\chi^2=16.96, df=10, .05<p<.10$)。残差分析の結果は、中堅保育者の「A達成」、志望学生の「Mモラトリアム」が有意に多かった。中堅保育者の充実した一面を表す結果と言える。他方、中堅保育者で全般的には、志望学生とほぼ同様の分布を得たことは、自我同一性獲得が生涯発達の中で検討されるべきものであり、中堅保育者においても課題となることを示したと言える。

なお、中間地位は定義が十分に確立されていない(大矢, 1999)ことから、以下の考察では、最も対人関係上の困難が予想される「D拡散」、それと対照的な「A達成」、さらに「F権威受容」「Mモラトリアム」を中心に取り上げる。

表1 同一性地位判定尺度3変数の平均得点と標準偏差

	現在の自己投入	過去の危機	将来の自己投入の希求
中堅保育者 $n=269$	17.49 (3.19)	17.08 (3.22)	15.99 (2.63)
志望学生 $n=312$	16.73 (3.64)	16.69 (3.19)	16.41 (2.75)
現職保育者 $n=266$	17.62 (3.14)	16.12 (2.92)	16.05 (2.26)

注) 志望学生、現職保育者は西山(2006)から引用。()内は標準偏差

表2 各群の同一性地位の人数分布

	A達成	AF中間	F権威受容	Mモラトリアム	DM中間	D拡散
中堅保育者	29 (10.8)	27 (10.0)	12 (4.5)	11 (4.1)	180 (66.9)	10 (3.7)
志望学生	19 (6.1)	37 (11.9)	17 (5.4)	20 (6.4)	200 (64.1)	19 (6.1)
現職保育者	16 (6.0)	38 (14.3)	20 (7.5)	7 (2.6)	175 (65.8)	10 (3.8)

注) 志望学生、現職保育者は西山(2006)から引用。()内は%

形態素解析と共起ネットワーク

中堅保育者における意識の全体的傾向等を検討するため、全記述データを対象にテキストマイニングソフト・KHCoder (Ver.2. beta.30b) による分析を試みた。KHCoderは、ChaSen (松本, 2000) による形態素解析を行った上で、抽出された語の詳細な計量的分析を行う。質的データに数値化操作を加えることで、量的な検討が可能となる。KHCoderは、自動的に取り出した語の統計分析、コーディング結果の統計分析、もとのテキストを確認するための検索や閲覧などの機能を持ち、柔軟な分析の環境を提供する (樋口, 2012)。質的なテキストデータを数値データと同じように扱うため、恣意的になりがちな作業を避け、膨大なテキストデータに潜む情報を要約し理解するために有用である。

表3には、頻出語上位100語とその出現回数を示した。これらの頻出語抽出には、次のような手続きを実施した。まず、全記述データをChaSenにより分かち書きし、27,636語を抽出した (SCTの刺激文は予め除外)。抽出語の種類は2,251語であった。その中から1,905語が分析に用いられた。分析に用い

た品詞は、KHCoderの品詞体系に従った。また、一部の語を分けずに分析するため、強制抽出の処理を行った (例えば「人間関係」「保護者」)。さらに、「思う」といった地位間の違いが生じない一般的な動詞は、今回は除外した。

次に、中堅保育者による意識の全体的傾向を把握するため、出現数50前後を目安に「共起ネットワーク」の検討を行った。共起ネットワークは、「出現パターンの似通った語、すなわち共起の程度が強い語を線で結んだもの」である (樋口, 2013)。図1には、アイデンティティ地位を見出しとして含めた共起ネットワークを示した (表示語数60語、表示共起関係76、密度.43)。共起ネットワークでは、布置された位置よりも、線で結ばれているかどうかの意味がある。また、出現数の多い語ほど大きな円で示されている。作成した共起ネットワーク図では、先程の頻出語一覧をより視覚的に捉えることができ、地位群と頻出語の関連も一目で理解することができる。出現数の多い語として、「仕事」「保育」「子ども」「自分」「出来る」などを挙げることができる。また、「クラス」「感じる」「復帰」などのように複

表3 中堅保育者の保育職への意識に関わる頻出語上位100語と出現回数

抽出語	出現回数	抽出語	出現回数	抽出語	出現回数	抽出語	出現回数
仕事	270	好き	46	関係	26	復帰	20
子ども	257	毎日	46	周り	26	本当に	20
保育	205	職場	45	楽しむ	25	いつ	19
出来る	194	両立	45	気持ち	25	常に	19
自分	174	日々	44	年	25	同士	18
楽しい	146	考える	42	分かる	25	理解	18
感じる	130	時間	41	子	24	一番	17
多い	107	園	40	子育て	24	気	17
大変	101	クラス	39	保育所	24	自身	17
保育士	85	学ぶ	39	少し	23	出る	17
人	84	笑顔	39	恵まれる	22	職業	17
難しい	78	勉強	39	持つ	22	心掛ける	17
続ける	73	いろいろ	38	辞める	22	同僚	17
今	64	社会	37	増える	22	不安	17
人間関係	64	関わる	35	必要	22	一生懸命	16
たくさん	62	責任	35	様々	22	努力	16
成長	62	経験	34	立場	22	違う	15
保護者	60	変わる	34	環境	21	公立	15
悩む	59	先輩	32	関わり	21	特に	15
大切	56	過ごす	30	指導	21	幼稚園	15
働く	53	家庭	28	他	21	一緒	14
先生	52	後輩	28	給料	20	慣れる	14
頑張る	50	生活	28	結婚	20	言う	14
充実	48	見る	27	深い	20	職	14
職員	47	対応	27	担任	20	大きい	14

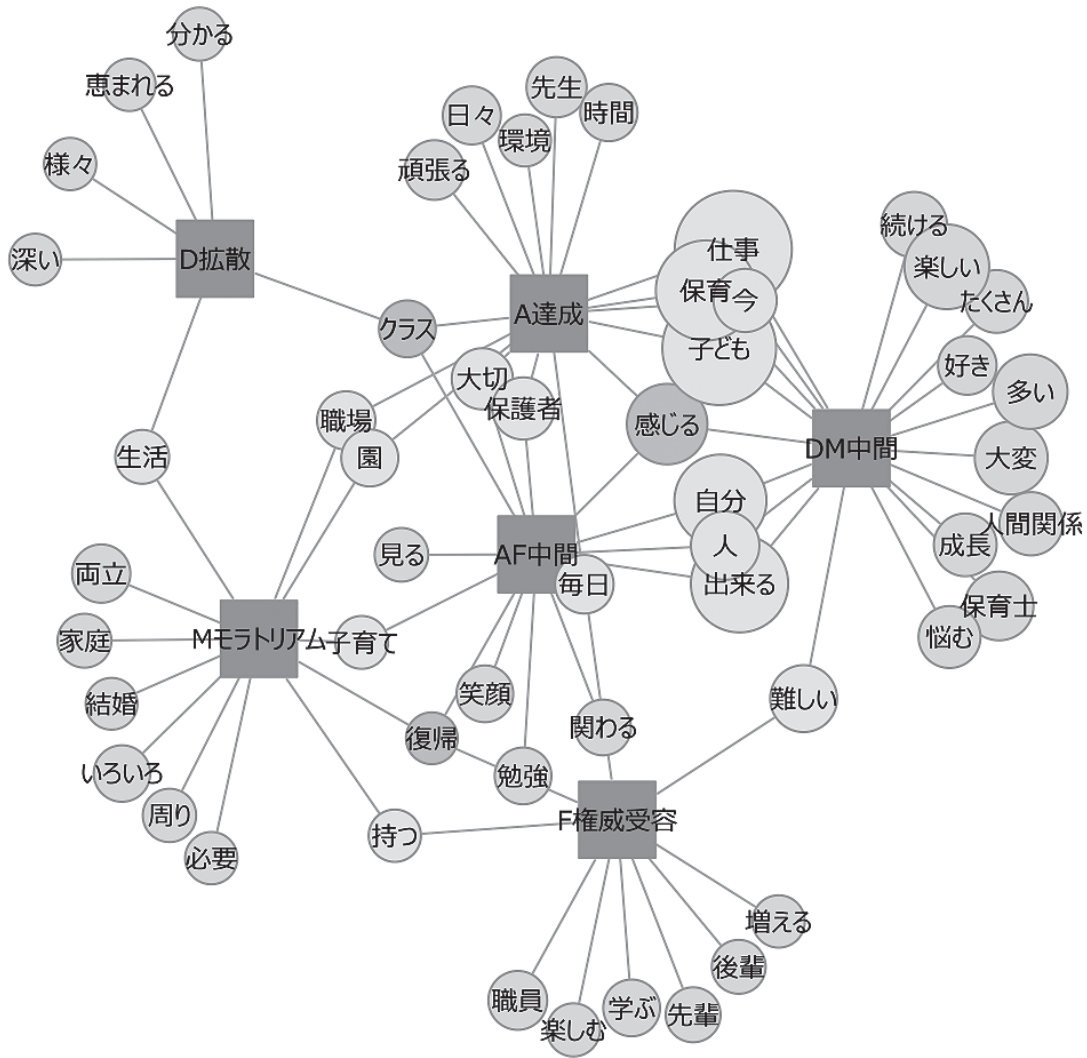


図1 中堅保育者の同一性地位からみた主要抽出語の共起ネットワーク

数の地位群と結び付きが強い語がある。他方、例えば「A達成」の「頑張る」「日々」「環境」「先生」「時間」のように各地位群に固有の語として、共起関係が表されている語もある。全体的にみると、中堅保育者に特有の保育の充実（e.g., 楽しい, 頑張る, 学ぶ）や悩み（e.g., 大変, 難しい, 悩む）、職場での人間関係（e.g., 人間関係, 先輩, 後輩）、保育と家庭等との両立（e.g., 両立, 家庭, 生活）などがうかがえる。以下、具体的な記述例とあわせて考察を加える。

同一性地位毎の記述例と特徴

表4には、地位を特徴づける語とJaccardの類似性測度を示した。また、各地位群に特徴的なSCTによる記述例を表5に示した。頻出語や各地位群に特徴的な語は、どのような文脈で使用されているか確認し（コンコーダンス分析）、参考にした。以下、図1の共起ネットワークと合わせて考察する。

「A達成」では、「頑張る」「努力」など前向きな

語とともに、意識を向ける対象としての「子ども」「保育」「仕事」「保護者」「クラス」が挙がっている。また、「今」「時間」「毎日」「日々」など時間に関わる語とともに、「職場」「園」「環境」など空間を表す語が共起関係にあった。全体として周囲へ目が向いており、現実的な対象を意識しつつ、今を大切に、それぞれの保育の課題に向かっている様子がうかがえる。「保育の仕事というのはすごく大変だけど、とてもやりがいのある仕事だ」「保育者としてはまだまだ未熟だが、他の先生のよい点を勉強し、自らの力を伸ばしていきたい。」などの記述のように、保育職へのやりがいを感じており、概して肯定的な捉え方がみられる。保育経験を積む中で、確実に自我の形成を果たし、保育者としての自分を時間的にも、空間的にも位置付け、安定した心的成長を果たしていると言える。

「F権威受容」では、「職員」「先輩」「後輩」「関わる」など周囲との関係に意識が向いている様子が見られる。また、「勉強」「学ぶ」「楽しむ」など

表4 中堅保育者の同一性地位各群を特徴付ける語と Jaccard の類似性測度

	A達成	F権威受容	Mモラトリアム	D拡散
子ども	.069	難しい .048	両立 .038	保育 .051
保育	.068	職員 .045	自分 .037	向く .036
感じる	.045	仕事 .045	保育士 .036	出来る .036
職場	.039	楽しい .039	成長 .033	保育士 .032
先生	.038	出来る .036	今 .033	働く .032
毎日	.035	増える .032	面 .032	深い .032
頑張る	.035	保育 .031	園 .032	環境 .031
今	.030	後輩 .031	努力 .028	自分 .030
園	.029	自分 .031	気 .028	クラス .027
努力	.027	先輩 .030	結婚 .027	人 .027

保育について学び取っていきこうとする姿勢が読み取れる。他方、「難しい」「増える」が共起関係にあり、「出来る」が特徴語として挙がっている。「F権威受容」は、過去に危機の経験がないか、低い水準の危機しか経験せず、現在高い水準の自己投入を行っている者を指す。表面的な健康さとは裏腹に、柔軟性に欠ける点もあり、潜在的な拡散傾向を示唆する事例もあるとされる (e.g., 加藤, 1990)。上村 (2012) は、中堅保育者について、初任保育者に比べ心の疲労度は少ないが、精神的なコントロールの力は熟練保育者に比べると低いと述べる。中堅保育者として期待される一方で、熟練保育者との保育観の違いや、新人保育者の指導等に苦慮する中間層としての負担を指摘している。「仕事が大変だと思うことが最近多くなってきた。」「仕事が辛くて毎日大変ですが、日々追われながら」などの記述のように、「F権威受容」に含まれる中堅保育者は、役割や責任が増える中で、出来る - 出来ないを意識しながらも、自己投入を試みている。

「Mモラトリアム」では、「園」「職場」など保育の場への意識とともに、「生活」「家庭」「結婚」「子育て」など保育以外の場への意識が特徴的と言える。「私は仕事と家庭の両立に努力している。」「今の職場を離れても」などの記述や、「両立」「復帰」「いろいろ」「周り」などの語からもそのことがうかがえる。他方、「成長」「努力」などの特徴語を挙げる事ができる。「Mモラトリアム」は、6つの同一性地位のなかで最も自我形成における危機体験を示す群と考えられる。この群は、明確な自己投入の対象を主体的に獲得しようとして、「現在の自己投入」は低いながらも、「将来の自己投入の希求」は高い点に特徴がある。女性のモラトリアム型は他の同一性地位と比べてストレスが強い (Toder & Marcia, 1973) との指摘もある。家庭や子育てとの両立といった課題に直面しつつ、将来の自己成長を望み、努めている姿を読み取ることができる。

「D拡散」では、「深い」「自分」「向く」などを特徴語として挙げる事ができる。「私は仕事に合っているのか、子ども達が成長出来るような保育が出来ているのか」「悩みは、自分に何が出来るのか、どうすればよいのか」といった記述のように、中堅保育者となって保育の奥深さを感じながらも、自分の適性に意識が向いている者もいる。従来の知見からは、「D拡散」の1つの特徴として、「自分」意識が不確実で、「あれも自分」「これも自分」という意識があり、どれが本当の自分か確信がもてない (鑑, 1990) といわれる。また、選択や決断において葛藤を引き起こし、職業選択や心理社会的自己定義を回避する状態が挙げられている (岡本 1999)。心理社会的に保育者としての自分を自己定義することが難しく、保育に対して低い自己投入しかできないといえる。なお、対人的距離の失調も「D拡散」の特徴として挙げられる。しかしながら、今回の「D拡散」に分類される中堅保育者からは、周囲の人間関係を極めて肯定的に受け止め、保育への傾倒の低さや不満は、自分の適性や能力に帰属される傾向がみられた。

以上、中堅保育者の自我同一性と保育職への意識との間に深い関係が示された。すなわち、総じて自我形成の十分な中堅保育者は、積極的な保育実践へ意識を持つものに対して、自我形成の不十分な者は、保育以外に目が向く傾向や自分の適性への疑いが示された。こうした保育職への意識の相違は、役割や責任が一層増す成人期後期に向けた、保育者としての成長にも影響を及ぼすものと推察される。

足立・柴崎 (2010) は、中堅期を人生としての転換期 (結婚や出産) と重なると指摘した上で、以下の6つの事柄が問題や落ち込み (揺らぎ) を生起させるとしている。すなわち、「業務の多忙さ」「プライベートとの両立の難しさ」「自分が理想とする保育と社会が求める保育容や園が求める保育内容とのギャップ」「身体的・体力的・精神的な辛さ」「職場

表5 中堅保育者の同一性地位毎の記述例

A達成

「私は仕事をするのが楽しいです。職場では自分らしく毎日明るく笑顔でいることを心がけています。保育は難しいですが、自分で試行錯誤したり、周りの先生たちにも相談しながら、子どもたちが毎日、楽しい日々を送れるよう心がけています。保育の仕事というのはすごく大変だけど、とてもやりがいのある仕事だということを感じています。悩みは、新年度になりクラスの子どものことをまだあまり把握出来ていないということです。」

「私は仕事をする中で、心が安定している。今の自分が支えられている。職場では、職員、保護者、子どもと和気あいあいと毎日楽しく過ごしている。保育者としてはまだまだ未熟だが、他の先生のよい点を勉強し、自らの力を伸ばしていきたい。就職後は、楽しいことより、苦勞し涙することが多々あったが、その経験がまた、今の自分を作り、今は本当に楽しいと感じさせてくれている。悩みは、上司の園経営のこと。一部の先輩のやる気のない言葉にがっかりしていること。」

F権威受容

「私は仕事が大変だと思うことが最近多くなってきた。保育歴が増えるにつれ、周りからのプレッシャーも大きくなっているように思う。職場では一番下だが、正規職員なので責任があり、臨時職員よりもしっかりしなければならないと感じている。保育は難しい。いろいろな子ども、保護者がいるので対応が大変。でも子どもはかわいく、やりがいのある仕事だと思う。就職後、人見知り気味だったが、社交的になれたように思う。知り合いも増え、学ぶことがたくさんある。子どもが理解出来ないのは、自分の指導力がないからなのか？」

「私は仕事が辛くて毎日大変ですが、日々追われながら取り組んでいます。職場では、後輩が増えたので、育成について考えています。保育はやはり難しいです。一人一人伸ばすのは…。悩みは、どれくらい子ども、親に満足してもらえたのか…。」

Mモラトリアム

「私は仕事と家庭の両立に努力している。職場では、まだ慣れていないため、ストレスが多い（4月から新しい園）。保育は、いろいろな形があってよい。そのため難しい。就職後、とても頑張っていた。力の抜き方が解らなかったため、辛かった。悩みは、職員同士の関係、コミュニケーションが足りずに互いにどう接したらいいかという空気があること。」

「私は仕事を続けたいと思っている。今の職場を離れても、保育や子どもに携わる職に就いていたい。自分の理想の保育と園の方針が違い、葛藤の連続だ。理想を通してなかなか伝わらず、苦しい。職場では、流されるだけの毎日。保育士の待遇の改善、給料、見合ったサポートが必要。周りの目が気になるようになり、保護者に会うということや、どこかで見られているということで、よい面も悪い面もある。悩みは、人間関係です。プライドが高いお局に対して、自分を殺さないといけない環境が苦痛。」

D拡散

「私は仕事が自分に合っているのか、子ども達が成長出来るような保育が出来ているのか悩むことがある。職場では、周りの人たちにとても助けられていると思う。周りの人たちがいて下さるので、自分は保育を続けていられると思う。保育は、子ども達のこれからに関わっていくことなので、私たちはとても責任があるし、適当な気持ちで出来る仕事ではないと思う。やるなら全力で！！就職後、保育の厳しさを知った。子どもが好きという気持ちだけでは出来なかった。悩みは、保育の内容。子ども達の発達（心・人間関係・行動面など）を手助けするには、自分はどのような内容で保育すればいいのかいつも悩む。保育の本を見たり、先輩に相談したりするが、奥が深く難しい。」

「私は仕事に追われている。職場では、よい仲間恵まれ、楽しく働いている方だと思う。保育とはとても難しい。図書館や本屋さんに行く機会が増えた。指導計画がはっきりとせず、うまくクラスがまとまらない。悩みは、自分に何が出来るのか、どうすればいいのか、分からず、やる気がしないこと。」

注) 必要に応じて「私は仕事」「職場では」「悩みは」など語句を補足している。

の人間関係への戸惑い」、及び「社会的地位の低さ」である。これらは本論の中でも多く記述され、中堅保育者の特徴を示すことが確認された。加えて、因果関係は不明にせよ、現在の自我同一性の状態が保育職への意識と明確な関連が示された。ほぼ同じ保育経験年数を積み重ねてきた中堅保育者であっても、保育職への意識とともに自我形成の状態は相当異なる。充実した保育職への従事において、中堅保育者であっても個々の自我形成や心的成長を考える必要性が示されたと言えよう。

初任期から中堅期にかけての保育経験の蓄積が、中堅保育者の自我状態や保育職の意識に影響を与えていると考えられる。他方、同じような経験であっても個々の保育者がどのようにそれを受け止め、個人の自伝的記憶としてどのように蓄積されたかとい

う視点も重要である。個人の認知を含めて、縦断的データから検討することは、今後の課題であろう。

謝 辞

本論は文部科学省科学研究費補助金（基盤研究(C) 課題番号：23531095）による助成を受けています。

文 献

足立里美・柴崎正行.(2010). 保育者アイデンティティの形成過程における「揺らぎ」と再構築の構造についての検討：担任保育者に焦点をあてて. 保育学研究, 48, 213-224.
秋田喜代美.(2001). 保育者のアイデンティティ. 森上史朗・岸井慶子(編), 保育者論の探究 (pp.109-

- 130). 京都：ミネルヴァ書房.
- Erikson, E. H. (1977). 幼児期と社会 1. (仁科弥生, 訳). 東京：みすず書房. (Erikson, E. H. (1950). *Childhood and society*. New York: W. W. Norton & Company.)
- 樋口耕一. (2012). 社会調査における計量テキスト分析の手順と実際：アンケートの自由回答を中心に. 石田基広・金 明哲 (編). コーパスとテキストマイニング (pp.119-128). 東京：共立出版.
- 樋口耕一. (2013). KH Coder2.xリファレンス・マニュアル. <http://khc.sourceforge.net/diagram.html> (情報取得2013/6/23)
- 加藤 厚. (1983). 大学生における同一性の諸相とその構造. 教育心理学研究, 31, 20-30.
- 加藤 厚. (1990). アイデンティティ・ステータス. 國分康孝 (編), カウンセリング辞典 (p.3). 東京：誠信書房.
- 小林哲郎. (1999). S C T. 氏原寛・小川捷之・近藤邦夫・鏑幹八郎・東山紘久・村山正治・山中康裕 (編). カウンセリング辞典 (p.58). 京都：ミネルヴァ書房.
- 厚生労働省. (2010). 保育士養成課程等の改正について (中間まとめ) <http://www.mhlw.go.jp/shingi/2010/03/s0324-6.html> (情報取得2014/10/10)
- Marcia, J. E. (1966). Development and validation of ego identity status. *Journal of Personal and Social Psychology*, 3, 551-558.
- 松本裕治. (2000). 形態素解析システム「茶筌」. 情報処理, 41(11), 1208-1214.
- 森上史朗. (2000). 保育者の専門性・保育者の成長を問う. 発達, 83, 68-74.
- 内閣府. (2014). 幼保連携型認定こども園教育・保育要領〈平成26年告示〉. 東京：フレーベル館.
- 西山 修. (2006). 子どもの社会性を育むことへの保育者効力感とアイデンティティ地位との関係. 子ども社会研究, 12, 57-69.
- OECD. (2012). *Starting Strong III: A Quality Toolbox for Early Childhood Education and Care*. Paris: OECD Publishing.
- 岡本祐子. (2002). アイデンティティ生涯発達論の射程. 京都：ミネルヴァ書房.
- 大野 久. (2010). アイデンティティ・親密性・世代性：青年期から成人期へ. 岡本祐子 (編). 成人発達臨床ハンドブック (pp.61-72). 京都：ナカニシヤ出版.
- 大矢泰士. (1999). 自我同一性地位と青年期の個性化過程：集団施行TATに見る親表象との関係から. 心理臨床学研究, 17, 333-341.
- 高濱裕子. (2001). 保育者としての成長プロセス. 東京：風間書房.
- 鏑幹八郎. (1990). 同一性拡散. 國分康孝 (編). カウンセリング辞典 (p.409). 東京：誠信書房.
- Toder, N. L., & Marcia, J. E. (1973). Ego identity status and response to conformity pressure in college women. *Journal of Personal and Social Psychology*, 26, 287-294.
- 塚原拓馬. (2013). 成人期におけるキャリア発達に与える要因と支援の在り方：成人期のアイデンティティ危機と職業・家庭要因からの考察. 実践女子大学生活科学部紀要, 50, 99-110.
- 佐野勝男・榎田 仁. (1960). 精研式文章完成法テスト解説：成人用. 東京：金子書房
- 上村眞生. (2012). 保育士のメンタルヘルスに関する研究：保育士の経験年数に着目して. 保育学研究, 50(1), 53-60.